

## 平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	学校りんご園後援会事業			財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習課	内線	1	10	5	2	10	1
政策体系上の位置付け	政策	元気な子供が育つ地育力のあるまちづくり			関連計画、条例等					
	施策	地育力を高める生涯学習の推進								
	基本事業									
事業区分	経常的事業	新規、継続区分	継続							
事業期間	11年度～	年度	環境調整会議の必要性							

## 【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを目ざします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)		
	りんご園との関わりを通して、子供達の生きる力や思いやりの心を育てることを目的に、龍江地域で後援会が発足。以後、龍江小学校と地域が連携して「学校りんご園」の管理を行っている。	りんご園後援会会員(30人)、龍江小学校生徒(155人)	当初(15)	17年度	182
16年度			185		
りんご園との関わりを通して、摘価や消毒、除草作業を体験し、地域の会員からの支援を受けながら収穫の喜びを得るまでの体験学習を行う。	りんご園後援会会員、龍江小学校生徒(人)	当初実績(15)	最終目標		
		16目標	185	16実績	185
		当初実績(15)	最終目標		
		16目標		16実績	
		17目標	182		

## (2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
		りんご園のかかわりを通して子供達の生きる力や思いやりの心を育てることを目的に、龍江地域で後援会が発足。以後、龍江小学校と地域が連携して「学校りんご園」の管理を行っている。	第1回アップルキッズの森集会(4月花壇作り)、第2回アップルキッズの森集会(6月摘果作業、除草、花壇作り作業、7月除草、9月除草)、第3回アップルキッズの森集会(10月収穫作業、あじびか、アルプス乙女)、(12月収穫作業、ふじ)、2月剪定作業、年間4月～1月、りんご園消毒作業	後援会会員数30人、龍江小学校生徒155人
4月花壇作り、6月摘果作業、除草、花壇作り作業、7月除草、9月除草、10月収穫作業、12月収穫作業、2月剪定作業、年間4月～1月、りんご園消毒作業			後援会会員数(人)、龍江小学校生徒(人)	

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額
事業費	特定国庫支出金			
	特定県支出金			
	起債			
	その他			
	一般財源	100	100	100
事業費計(A)		100	100	100
人件費	正規職員所要時間			
	臨時職員等所要時間			
人件費計(B)		0	0	0
トータルコスト A+B		100	100	100

特定財源内訳

## (3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値	
	りんご園のかかわりを通して、子供達の生きる力や思いやりの心を育てる		16目標	16実績
17目標				
		16目標	16実績	
		17目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
元市長が飯田市へ青少年健全育成のために役立ててほしいと100万円を寄附。その使途として、元市長が教師時代に龍江小学校で「りんご」の栽培をはじめ、市内で最初りんご栽培を導入した龍江地区へ5本のりんごの木を購入して学校りんご園とした。平成11年にそれを契機として学校りんご園後援会が発足。学校と地域が連携して管理を行っている。	りんご園の管理を通して、子供達は生命の尊さ、生きる力、思いやりの心を学び、また地域の協力も得て、毎年、収穫後は元市長の遺族や関係者に「アップルキッズの森」収穫の御礼としてりんごを送っている。	子供達は、りんごを通して思いやりや助け合いの心を学び、また学校、地域との関わりも深まり、りんごを贈った元市長の心が子供達の活動を通して伝えられていく。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がある (その理由) 他の学校や地域に、方法が応用できないか検討の余地あり。	有効性評価 廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響あり (その理由) 開始後、一定期間の支援によって、学校、地域の主体的事業に切り替える必要があるが、当面は継続する。
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) 体験を通して学ぶことができる。	類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由) 「学校りんご園」後援会発足の経過や、今後の取り組み方法を検討する上でも必要。	効率性評価 成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?	(評価) 可能 (その理由) 学校と地域での自主事業に切り替え。
			公平性評価 受益者は誰か?負担の是非、程度は妥当か?	(評価) 妥当である (その理由) 龍江小学校、後援会会員、りんご園関係者、元市長の心を伝えること。また、学校、地域との協力、子供達が生き方や思いやりの心を学ぶ事業として妥当であり、事業自体が軌道に乗る一定期間の支援は妥当である。

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案)	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	学校と地域連携による主体的な活動とする。	
時期(年度) 21		